

令和4年度 自己評価結果

学校法人 福原啓明学園 光貞幼稚園

【園の教育目標】

◎考える力を培い、体力作りに励み、優しさや思いやりの心を育てる。

【本年度の評価項目の重点的取り組み目標・達成評価・評価理由と取り組み内容・今後取り組み課題】

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

項目	基本目標	本年度の重点的取り組み目標	評価	評価の理由と具体的な取り組み内容	今後取り組む課題
1		<p>〔保育スキルの向上〕</p> <p>幼児の声に耳を傾け、同じ目線で接することを心掛け、保育技術や資質向上の為に、常に自身の保育や幼児へのかかわり方を振り返り、自己課題が出た場合は改善するように努めると同時に、幼児一人一人の発達の特성에応じて指導をし、ささやかな成長を見落とさず、それを喜ぶ。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の「出来た」瞬間を一緒に喜び、しっかりと褒めることで、自信へと繋げられるように努めた。 ・職員間で情報交換をして連携を取りながら、一人一人の特性に合った指導に努めた。 ・気になる子どもの特性に早い段階で気付き、専門機関に相談しながら適切な対応をした。 ・今年度は、全国の保育施設で痛ましい事件が生じたことを受け、自分達の保育が子ども主体の保育であるかを改めて検証する機会を設けた。 	<p>幼児自身が「愛されている」「認められている」「大切にされている」と感じられるよう、一人一人の子どもに寄り添い、信頼関係の構築を図ると共に、目標を立ててやり抜く力や、失敗してもあきらめない力を育てていく。発達の特性をしっかりと理解し、気になる子は、専門機関に相談をし、連携を図る。</p>
2	保育内容の充実	<p>〔カリキュラムの充実〕</p> <p>幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導計画は、幼児の実態や年齢に応じたもので、個々の発達や能力に応じて柔軟に実施し、随時反省や評価を行い、カリキュラムに記録する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム立案においては、年齢や実態に応じたものとし、個々の発達の特徴や能力も考慮しながら一人一人の子供が目標を持って取り組めるように工夫した。 ・日々の保育や行事終了時において、幼児と共に達成感を味わうことが出来た。 ・コロナ感染予防対策を講じての園行事実施には、大変なところがあり、バランスに悩むことがあった。 	<p>今後のコロナ対応の変更に伴い、状況を踏まえて、子ども達の大切な経験が削がれないよう、又、挑戦する機会を逃さないように計画を立てて実行する。</p> <p>個別の目標が達成できるように柔軟性を持って対応する。</p>
3		<p>〔保育環境の見直し〕</p> <p>幼児が安定して遊び込める連続性に考慮した環境構成とし、遊具やコーナーの設定は、幼児の動線を配慮した安全なものとする。コロナ感染予防対策の徹底を行い、健康管理にも留意する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自主的に遊び込めるように、出来るだけ多くの遊びを用意して環境作りに努めた。今後は、幼児が動線を意識しながら安全に留意して遊べるように働きかけることが必要である。 ・玩具や戸外遊具等、危険箇所や破損については、随時報告をし、修理、処分が行えるよう努めた。 ・自動センサーの消毒を使用したことにより、子ども達が自主的に出来るようになった。 	<p>新しい室内玩具に喜んで遊ぶ姿が見られたが、今後は、幼児の声を取り入れながら、新しい遊びに発展できるような仕掛けを作る等、環境設定に工夫をする。</p> <p>全職員で遊具や玩具の点検を行い、安心・安全に遊べるように継続して留意する。</p>
4	地域との連携	<p>〔地域との連携や交流の推進〕</p> <p>コロナ感染予防の為、地域との連携・小学校との連携を円滑に行うことは出来ないが、来客や地域の方とお会いした際には、率先して挨拶や会話を心掛け、幼児が自然に挨拶できるように導く。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ感染予防の為、小学校との交流会が出来ずに残念であった。 ・コロナの影響で、卒園式に上映出来なかったスライドがあったが、該当する小学校3年生親子を招待して上映することが出来、大変喜んで頂いた。 ・日頃より、「おはようございます」「さようなら」の挨拶等、意識付けしながら場面に応じて気持ちの良い挨拶や会話が出来るように指導してきた。 	<p>小学校との連携を円滑に行い、教育が継続したものとなるように努める。幼児自ら出会った人に積極的に挨拶が出来るよう働きかけ、触れ合いの楽しさを体験する中で、関わり言葉の活用を促していく。</p>

5	幼稚園運営の強化	〔未就園児への対応・課外教室の充実〕 可能な範囲で、未就園児親子が楽しめるプログラムを計画し実行する。課外教室では、在園児個人の興味関心のある物の上達を助けるようにする。	B	・季節に合ったイベントのお話や年齢に適した制作やゲーム等を準備し実行した。緊張が解けるように保護者と子どもに言葉掛けを多くして、楽しい気持ちで参加が出来るように努めた。 ・子育て相談には、電話で丁寧に対応した。 ・課外については、可能な限り回数を重ね上達できるように時間設定をした。	より良い親子関係の築きや同年齢の友達との関わりを含め、幼稚園が身近な存在となる機会を多く作り、子育て相談にも応じていく。課外教室の活動を知らせて、個人の興味関心のあるものの上達を助ける。
6		〔広報活動の充実〕 幼児の成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有できるよう努め、幼児の課題に向けては、幼稚園と家庭が協力しながら働きかけられるように努力する。	B	・子どもの「できた!」を、保護者と喜び合えるようにお知らせし、又、心配な面も伝え合って信頼関係が築けるよう努力をした。子どもの課題克服に向け、保護者と連携を取りながら働きかけをしてきた。 ・ホームページやクラス便りにおいて、行事や日々の活動を写真に残し、コメントを添えてお伝えした。	園の教育やその取り組み、子ども達の日頃の様子を、保護者や地域の方々知って頂く為、今後も引き続き情報発信をしていく。

【幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果】

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価	評価の理由
B	コロナ感染予防措置を執りながらの保育はかなり大変であり、通常保育以上の時間を要したが、その中でも子ども達の成長に必要な体験である、泥んこ遊びやプール遊び、園外保育等も徐々に再開することが出来た。他の保育に関しても、お子さんの成長を保護者の皆様に観て頂く『保育参観』の機会を作ることが出来た。又、教職員一人一人が振り返り、自身の保育や園全体を見つめ直す機会を設けることが出来た。これらの結果を活かし、更なる保育活動の充実と教職員の資質向上に努めていけるよう、対面での研修だけでなく、オンライン研修や動画を見ての勉強会などにも積極的に取り組んでいけるよう、努力したい。

【学校関係者の評価】

◎コロナの大変な時期に、園児や保護者との信頼関係を築くことは、とても大変な事と想像できますが、よく頑張られたと思います。スライド上映に関しましても、卒園児親子さんへの温かい思いを感じる事が出来ました。ベテランの職員もいて下さり、その経験値で安心感を抱くことが出来ます。何より、園児を第一に思った細やかな保育は素晴らしいと感じます。気になるお子さんへの対応に関しましても、早い段階で相談することが出来ていることは大切なことだと思います。今後も光貞幼稚園らしさを発揮して、頑張ってくださいと思います。